高等部道徳科学習指導案 『外国のこと、次々発見！』

**１　主題名**　世界に心を向ける　C-(１８）　国際理解　国際貢献

**2　ねらいと教材**

（1）ねらい

・世界に心を向ける

・身の回りにも、他国の文化や習慣があることに気付くことができる。

・世界各国への興味を広げ、理解を深めようとすることができる。

（2）教材　　外国のこと、次々発見！　（P８４-８７）

**３ 主題設定の理由**

本主題は、以下の中学校新学習指導要領「特別の教科 道徳」（平成２９年３月告示）の内容項目のねらいを受け、個々の生徒の知的障害の状態、生活年齢、学習状況及び経験等に応じるとともに、青年期の特性を考慮して、健全な社会生活を営む上に必要な道徳性を一層高めるために、適切に指導の重点を定め、指導内容を具体化した。

|  |
| --- |
| C　主として集団や社会との関わりに関すること　（１８）　国際理解　国際貢献  世界の中の日本人としての自覚をもち、他国を尊重し、国際的視野に立って、世界の平和と人類の発展に寄与すること。 |

1. ねらいとする道徳的価値について【価値観】

最近の日本国内では、様々な国籍の人々を見かけるようになった。それは旅行客だけではなく、我々の地域社会で働いていたり、暮らしていたりと身近な存在となっている。多様性の時代を迎えた今、外見や言語等は違えども、同じ人間としてお互いの理解を深め、共に生きていこうという態度を育んでいきたい。そのためにはまず、自分たちの身近に、様々な国籍の人がいるということに気付き、そして共に生きていくためにはどのような工夫や配慮、相手を慮る態度が大切かということを考えられる態度を育んでいく。

（２）生徒の実態について【生徒観】

教材を読んで、自分の生活と重ね合わすことができ、外国の風習を想起できる生徒が対象であることが望ましい。例えば、給食のメニューを想起できること、電車等の公共交通機関の利用経験があり、いろいろな国の言葉の表示があることを想起できることなどである。また、スーパーやコンビニエンスストア、レストランなどの利用経験があり、身近な生活の中で外国の方と触れ合う機会があったりすると、授業で学んだことを日常に汎化しやすくなると考える。

日常の学校生活においては、ALTによる英語の授業や給食のメニュー等、自分たちの身近な生活に外国の文化があることに気付けるよう指導していく。

余暇生活においては、行き交う人々の中に外国の方がいることや、身近な案内表示にも様々な言語で書かれていること等に目が向けられるよう、学習内容を家庭にも伝えて連携を深めておく。

（３）教材について【教材観】

導入で自国の日本の特徴を考えることで、その後の本文使用の際に、より外国のことを意識して授業に臨みやすくなる。本文の内容は、自分たちの身近な生活の中に外国の言語や文化があり、共に生活しているということを想起できる教材となっている。また、本文に使用されている駅の案内表示等の画像が、文化や習慣等が違う人々が共に生きていくためにはどうすることが大切かという課題に取り組むきっかけとなっている。さらに、「深めよう」で世界の様々な衣装や、じゃんけんの仕方などを紹介することで、授業後に、もっと自分で知りたいという意欲につなげていく。

**４　学習指導計画**

（1）全体計画　１時間（本時）

（2）準備　　　駅の案内図（黒板掲示用）・A3サイズの用紙（あるいはA３サイズのホワイトボード）

　　　　　　　　　　 マグネット磁石（あるいはネームプレート）

（3）指導過程

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 段階 | 時間 | 学習活動（主な発問） | 予想される生徒の発言 | 指導上の留意点  ☆評価の観点 |
| 導  入 |  | １　日頃の生活に、どれだけ外国の言語や文化があるかを思い出す。  ○日本の食べ物や昔からの服装等、日本といったらどのようなものが思い浮かびますか。  ○日本以外の外国のことについて考えてみましょう。身の回りに、どのような外国のことがありますか。 | ・寿司、うどん、そば  ・箸を使う。  ・着物、浴衣　等  ・イタリアンメニュー  ・多言語の案内放送  ・多言語の案内表示等 | ・これまでの経験を振り返る。  ・生徒の発言を板書していく。  ・本文の内容と比較しやすいような項目になるような問いかけをしていくとよい。  ・本文の範読後にP84の内容も板書するので、そのことも考慮して板書をしていく。 |
| 展  開 |  | 2　教材　「外国のこと、次々発見！」を読み、話し合う。  　　・教材を読む。  ・Ｐ８４のテキスト内容を把握する。  〇それぞれの国で、食べ物や言葉がこんなに違うことについて、どのように感じますか。  ・個人の考えをテキストに書く。（P８6）  ・黒板の数直線上に、自分のマグネット磁石を貼る。  ・クラス全体で意見交換をする。  ・駅の案内表示について意見交換をする。  〇この案内表示には、どのような言語が書かれているでしょうか。  〇何のためにこの案内表示はあるのでしょうか。  〇皆さんの生活の中で、外国の人を見かけることはありますか。  ○言葉や文化が違う外国のことを知ることは、どうして大切なのでしょうか。  ・個人の考えをテキストに書く。（P８6）  ・３～４人のグループで意見交換をする。  ・グループごとに発表をする。 | ①みんな同じほうがよい（理由：同じほうが便利だと思うから。）  ②それぞれ違うほうがよい。（違えば楽しみも増える。お互いが理解し合えば問題なし。）  課題　「違い」のある人々が一緒に暮らしていることについて考えよう。  ・日本語　　・英語  ・中国語　　・韓国語  ・日本には色々な国の人がいるから。  ・ある　　・ない  ・あまり気にかけたことがなかった。  ・共に生きていくためには、その人の生まれた国を知ることが大切だと思うから。 | ・教師が範読する。  課題　それぞれの国によって「違い」があることについて考えよう。  ・導入の際の板書に加筆していく。  ☆それぞれの国によって違いがあることに気付くことができたか。（知・技）  ☆国によって違いがあることについて感じたことを表現することができたか。  （思・判・表）  ・氏名が貼られたマグネット磁石  使用する。  ・様々な位置に置かれているマグネ  ット磁石に着目し、生徒の考えと理由を問うようにする。  ・案内表示図を黒板に貼る。  ・複数の言語が記載されていることに気付けるようにする。  ☆いろいろな国の人が一緒に暮らすための工夫がされていることに気付くことができたか。  （知・技）  ・Ｐ８５の内容に触れながら、発問をする。  ☆言葉や文化の違う外国のことを知ることの大切さについて進んで考えようとすることができたか。  （態度）  ・Ａ３サイズのホワイトボード（あるいはA3用紙）を配付する。 |
| 終  末 |  | ・Ｐ８７「深めよう」に取り組む。  ・世界には様々な衣装があることを知る。  ・外国のじゃんけんを体験する。  ・自分の好きな国や気になる国についてどのようなことを調べてみたいかを伝え合う。  ３　本時の振り返りをする。 |  | ☆他国のことに興味をもったり、積極的に知りたいことをみつけたりすることができたか。  （態度）  ・生徒が興味のある他国について意見交換することで、生徒たちの調べてみたいという意欲につなげられるようにする。  ・社会科の教科の学習につなげていくことを伝える。 |

（4）終末での教師の説話例

お互いの国の文化や風習を理解し合い、認め合った体験を話すことで、生徒達の興味や意欲をより深められるようにする。例えば、学生時代のクラスメイト（留学生）のこと、地域にある多国籍レストランの店員とのやりとり、海外旅行時の体験などを話してもよい。

なるべく、生徒たち自身が教師の体験したことが自分にも起こるかもしれないと、自分事と捉えられるような話をし、生徒たちの興味や関心を日常に向けて授業を終えられるようにするとよい。

**○板書計画**

駅　の

案内表示

　外国のこと、次々発見！

［ 日本 ］　　　　　　　　　　　　　　　［ 外国 ］

　　　・すし・うどん・そば　・カレー　・ナン

　　 ・箸　　　　　　　　　　　　　　　・スプーン・フォーク

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　ナイフ・手づかみ

　　　・日本語　　　　　　　　　　　・英語・中国語・韓国語

　【Ｑ】それぞれの国で、食べ物や言葉がこんなに違うことについて、どのように感じますか。

　　 　　 ①　みんな同じ方がよい

　　　　　　　　　②　それぞれ違う方がよい

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　【何のためにあるの？】

　・いろいろな国籍の人が

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　がいるから。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　・みんなが生活しやす

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　くなるために。

【Ｑ】言葉や文化が違う外国のことを知ることは、どうして大切なのでしょうか。